

死刑映画で考える

8作品上映 渋谷で13日から

■上映される作品

- 「九人の死刑囚」 (日本、1957年)
- 「愛と死のかたみ」 (日本、62年)
- 「絞死刑」 (日本、68年)
- 「息子のまなざし」 (ベルギー・フランス、2002年)
- 「スリーピング・ボイス～沈黙の叫び～」 (スペイン、11年)
- 「シャトーブリアンからの手紙」 (フランス・ドイツ、12年)
- 「約束 名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯」 (日本、12年)
- 「袴田巖 夢の間の世の中」 (日本、16年)

国内外の死刑を題材にした映画を集めた「死刑映画週間」が13日、東京・渋谷の映画館「ユーロスぺー



「袴田巖 夢の間の世の中」©Kimoon Film

ス」で始まる。5回目の今年には「殺されていく命」をテーマに、8作品が上映される。昨年末、市民が判断に加わった裁判員裁判での死刑囚に、初めて刑が執行された。「市民が死刑制度に関わるようになった今こそ、死刑について考える糸口にしてほしい」。企画した市民団体はそう願う。月末の一般公開に先駆けて14日に上映されるのは「袴田巖 夢の間の世の中」。静岡県で50年前に起きた一家4人殺害事件で死刑が確定し、2年前に再審開始決定が出て釈放された袴田巖さん(79)を追った。また、第9次再審請求中の昨年10月に収容先で病死した奥西勝元死刑囚(当時

89)を悼んで、「約束 名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯」も上映される。奥西元死刑囚を演じた俳優・仲代達矢さんによる再現ドラマとドキュメンタリーで構成されている。

映画週間を企画したのは「死刑廃止国際条約の批准を求めるフォーラム90」。メンバーで評論家の太田昌国さん(72)は「死刑存続に賛成する人も、迷う人にも見てほしい」と話す。

19日まで毎日4作品を上映し、作品の監督らが日替わりで講演する。各回一般1500円。スケジュールはユーロスぺースのホームページ (<http://www.eurospace.co.jp/>) へ。

(金子元希)